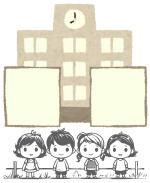
したただの郷　小学校統合だより　VOL.2



子どもたちの より良い教育環境のために

2025
DECEMBER
12

TOPIC　校舎は、長沢小学校と飯田小学校の２校のいずれかを軸に検討を進めます。

統合校として活用する小学校校舎について、第２回準備委員会で各学校運営協議会の意見をいただきました。意見は長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の２校に集中しました。そこで、この２校を視察し、次回の準備委員会で更に検討を進めることになりました。


長沢小学校



飯田小学校

□□■ 第２回したただの郷未来の学校設置準備委員会

（1）日　時　　11月26日（水）午後６時から午後８時35分まで
（2）場　所　　下田中学校食堂
（3）内　容　　小中一貫教育の校舎形態について、統合小学校の校舎について

□□■ お詫びとお知らせ

「したただの郷　小学校統合だよりVol.1」で、統合時期の決定を「準備委員会で反対意見はなく決定」と記載したことについて、委員から「準備委員会で審議なく決まったように見えるため、おたよりには具体的に記載してほしい」と御意見をいただきました。統合時期の決定について、おたよりで一文に簡略化した書き方となってしまったことにお詫びいたします。今後は、おたよりに準備委員会概要を掲載することで審議の経過をお伝えしていきます。なお、今回は改めて第１回準備委員会概要も掲載します。

担当　三条市教育委員会教育総務課庶務係（井上・富樫）
電話（0256）45-1111

第１回準備委員会概要

あらためて、第１回準備委員会を振り返ります。

市長あいさつ

下田地域の小学校５校を１校に統合することは、少子化だからというネガティブなことではない。むしろチャンスと捉え、どうすればより良い環境で教育を受けることができるのか、皆さんと一緒に考える良い機会と思っている。このチャンスを皆さんと一緒に掴んで、私たちの考えを具体化し、子どもたちに届けたいと考えている。

小学校の統合の時期について

【議事】小学校の統合時期を令和10年４月にすることは、懇談会等で議論や質疑は尽くされてきた。統合時期は、「令和10年４月」としてはどうか。

【提起】準備委員会の考えとして、統合時期を「令和10年４月」として決定してはどうか。

（全員異議なく決定）

【決定】統合時期は、「令和10年４月」に決定。

Q 準備委員会で統合時期を決定した後、住民に説明してはどうか。

A 随時、下田地域に回覧を発出する。物事を決定する度に周知し、住民に承知いただくよう努める。

Q 統合小学校が下田中学校校舎に移動する時期は明示しないのか。

A 下田中学校校舎が小学校５校の児童数を受け入れることができる時期は、令和15年度以降を想定している。正確な年度を想定することは難しいことから、時期ではなく方向性を検討いただきたい。

統合校として活用する小学校校舎について

【議事】第１回準備委員会で結論を出すことは難しいと思うので、各学校運営協議会でも考えていただき、次回の準備委員会で議論してはどうか。

Q 統合後の駐車場は足りるのか。行事時の駐車場も考慮して欲しい。

A 駐車場をどの位確保できるのか検討する。

Q 統合後の児童クラブはどこに開設するのか。

A 校舎決定後に検討する。児童クラブは面積基準があり、その面積は確保する。

Q 水害時は長沢小学校と笹岡小学校が「その他避難所」になってるが、避難者が少ないためか。

A 「その他避難所」は、第２次避難所に向かうことが危険な場合、ひとまず避難できるよう指定されている。

Q 休み時間にトイレへ行く児童が集中するが、トイレの数は足りるのか。

A 校舎決定後に検討する。必要に応じて増設も考える。

Q 統合後の職員室は面積が足りるのか。不足していて改修が必要なのか。

A まずは、５校の小学校校舎の現在の教室数や面積で検討してほしい。校舎決定後、どのような改修が必要か検討する。

【提起】統合校として活用する小学校校舎については、各学校運営協議会でも考えていただき、次回の準備委員会で議論してはどうか。

（全員異議なし）

【決定】統合校として活用する小学校校舎は、次回の準備委員会で議論することを決定。

その他

Q 準備委員会はどのような可決方法をとるのか。

A 多数決ではなく全会一致が望ましいと考えるが、難しい場合もあるので相談しながら進める。

教育長あいさつ

しただの郷学園の学校に勤務したことがある、この地域ほど子どもと密接にカリキュラムを進めているところはない。５校の小学校のそれぞれの知見が１つにまとまり、文部科学省が推進する地域に開かれた学校が開校することになる。安心安全でわくわくするような学校になるように御尽力いただくよう、今後ともよろしくお願いしたい。

第２回準備委員会概要

小中一貫教育の校舎形態について

【情報提供】三条市では小中一貫教育を推進している中、懇談会のほぼ全ての会場で、下田中学校校舎に小学校を統合すべきという御意見をいただいた。

令和10年４月に下田中学校校舎へ統合小学校の児童全員を受け入れる場合、教室数などが不足するため、下田中学校校舎を増築する必要がある。しかし、少子化により、児童数の減少が続く見込みの中、増築してもすぐに空き教室が増えてしまう。そこで、令和10年４月にはひとまず５つの小学校校舎のいずれかを活用することが極めて適切ではないかと考えている。一つの考え方だが、まずは令和10年４月にいずれかの小学校校舎を活用して統合し、その後、令和15年度以降に下田中学校校舎が統合小学校の児童を受け入れることが出来る段階で統合小学校が下田中学校校舎に移るという考え方である。この場合、２段階の小中一貫教育の形態を持つことになり、先々下田中学校校舎に統合小学校の児童が移るとした際の小中一貫教育の形態が令和10年４月の小学校統合時の小中一貫教育の形態をも左右することが想定される。このことから、先々中学校に移行するとした場合の小中一貫教育の形態を合わせて考えることが必要である。

次回、小中一貫教育の形態を検討するにあたり、まずは委員の皆さんに事前に理解を深めていただきたく、本日、小中一貫教育の分野を研究している大学院教授や、市内で小中一貫教育の校舎一体型と義務教育学校、それぞれの形態で小中一貫教育を実践している学園長からお話をいただく。

Q 小中一貫教育を実施して10年経過したが、成果はあったか。

A 毎年、年度末に小中一貫教育点検アンケートを行っており、「中学校進学への不安が無くなったか」の回答で９割近い児童が肯定的な回答であったことから、中１ギャップ（※）について一定の成果があったと捉えている。なお、小中一貫教育の校舎一体型と校舎分離型でこの結果に大差はない。

Q 校舎一体型にした前後で不登校の児童数に違いはあるか。

A 校舎一体型にした後の不登校の児童数は、校舎一体型にする前に比べて減った。ただし、新型コロナウイルス感染症の時期に全国的に不登校の児童数が大きく増え、三条市も同様に増えた。

Q 地域との交流は、統合後も統合前の学校校舎を残した上で活動しているのか。

※中１ギャップ　小学校から中学校に進学した際に、学習や生活面でストレスを感じたり、不登校やいじめなどの問題が起きやすくなったりする現象のこと。

A 地域のお祭り等に参加するための学校校舎は必ずしも必要ない。ただし、統合前の体育館のみ残っていて、そこを活用する場合もある。

Q 地域との交流は、統合後どの教科に取り入れるのか。

A 一番多いのは総合学習である。

Q デメリットを知ることで判断できることもある。小中一貫教育の各形態のデメリットも示してほしい。

A 御意見として頂戴する。

Q 教員の任期の最長は、義務教育学校の大崎学園でどのくらいか。

A 任期は、大崎学園に限らず県内どの学校も原則５年までである。大崎学園では、児童が前期課程を修了しても、後期課程で前期課程の教員がいることもある。７年生になっても校内に以前の教員がいることは児童にとって心強いと思う。

小中一貫教育の形態については、まずは委員の皆さんに事前に理解を深めていただいた。次回の準備委員会で議論する。


第２回準備委員会の様子

統合校として活用する小学校校舎について

【議事】統合校として活用する小学校校舎は、第２回準備委員会で検討することにしていた。各学校運営協議会で考えていただいた結果を、それぞれの学校ごとに発言を願いたい。

長沢小学校運営協議会

５つの理由から長沢小学校校舎を活用することが望ましいと考えた。

①ハザードマップを見ると長沢小学校校舎は災害に強い立地条件であること。

②下田中学校との距離が近く、小中一貫教育を進める上で乗り入れ授業や小中連携で行き来がしやすいこと。

③人口流動の観点で近隣に下田庁舎や主な店舗などがあり下田地域の中心部であること、また、スクールバスの輸送も容易であること。

④裏に山があるなど地域資源がありダイナミックな教育活動が展開できること。

⑤平成６年度の駒込校との統合時は、児童数が231人で普通教室数は、１、２、４年生は１クラス、３、５、６年生は２クラス、特別支援学級は１クラスだった。令和10年度の普通教室数は平成６年度の時とほぼ同じ見込みであり、受入れ能力的に問題ないと判断したこと。また、当時勤務していた職員に聞いたところ、トイレや手洗いが混むことはなかったとのこと。

ただし、駐車場の不足、プールの老朽化、令和10年度に想定される特別支援の学級数５クラスに対応できるかは懸念事項である。


長沢小学校　スクールバス


飯田小学校　スクールバス

笹岡小学校運営協議会

1校に絞れなかったものの長沢小学校校舎を活用する意見が多く出ていた。例えば、飯田小学校校舎は裏に山があり水害等の危険性を考慮すると長沢小学校の立地が良いという意見など。

ただし、長沢小学校のプールの老朽化は懸念事項。今年は下田中学校のプールも老朽化により使えないことがあった。下田中学校のプールと併せて新設することも考えられる。

大浦小学校運営協議会

立地条件、校舎のスペック、グラウンドの広さを考慮し長沢小学校校舎を活用することが妥当という意見が多くあった。例えば、下田地域は冬期間雪道となる中、スクールバスの運行を考えると中間地点に位置する長沢小学校校舎が良いという意見など。また、保護者の意見を聴いてほしいという意見があり、現在、大浦小学校運営協議会で保護者アンケートを行っている。今のところ、長沢小学校校舎を活用する意見が多いものの、少数ながら飯田小学校校舎を活用する意見もある。一方で下田中学校校舎を活用する根強い意見もあり、今後どのようにまとめていくのかが課題である。

森町小学校運営協議会

活用する校舎は、長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校に絞られた。しかし、そもそも小学校を統合することに反対する意見や、令和10年度に小学校を統合して、令和15年度以降に下田中学校校舎に移動となると、その5年間だけに改修費を掛けることになり、最初から下田中学校校舎を活用した方が良いという意見もあった。

その他、駐車場の確保をしてほしい、より良い環境の校舎を活用してほしい、保護者アンケートを行ってほしい、どんな学校にしたいか決めてから、そうするにはどのくらいの期間が掛かるかで統合時期を決めてほしいという意見があった。

また、教育委員会から自治会に周知された「より良い教育環境のために」というたよりの中で、令和10年4月の統合時期の決定を「準備委員会で反対意見はなく決定された」と記載があり、審議もなく出来レースの様に決まったのかという質問があった。たよりには、具体的な説明を記載いただきたい。

飯田小学校運営協議会

次の理由により、飯田小学校校舎を活用したいという意見だった。

①飯田小学校開校時の児童数は200人以上であり、校舎の受入れに問題がないこと
②教務室からグラウンドなどが見渡せること
③校舎やプールが比較的新しいこと、校地内の車の動きがスムーズなこと
④ウエルネスしただなど校地外に駐車場を貸りることができる場所があること
⑤保育所や、市営住宅が近くにあること
⑥神社や資料館等が近くにあり教育活動で使えること
⑦周辺道路が広いこと
⑧校舎内の多目的スペースで子どもが遊べること　など

懸念事項として、統合時の普通教室数の不足を解消するために多目的スペースが改修候補に入っており、子どもたちが活動できるスペースが減ること、島川原、南中に歩道がなく、冬の徒歩通学者が危険なことがあった。

その他の意見として、学区内に保育所、小学校、中学校を1つに集める必要があるのか。1つに集めることでそれ以外の地域が衰退するため、平等に活性化するようにしたらどうかという意見があった。


飯田小学校　多目的スペース


長沢小学校　多目的スペース

したの郷学園運営協議会（下田中学校運営協議会）

地域に小学校がなくなることが心配である、小学校の統合で児童数が増加しトイレの数が不足する等ハード面が心配である、準備委員会において原案が無いため、物事を決めるのは大変である、出来レースではないものの、状況を見ると疑わしい面があることなどの意見があった。

また、統合時期は何の反対もなく決まったのかという疑問と下田中学校校舎への統合は可能性が無いのかという疑問があった。

したの郷学園運営協議会（下田中学校運営協議会）の意見の中での疑問に対する事務局の回答

統合時期については、何か特定の時点にこだわって示したものではない。令和10年4月という趣旨としては、少子化のスピードを考えた時に、1日でも早く子どもたちに適切な学習集団を提供したいこと。これを取組として進めていく時に、最短で可能な時期が令和10年4月であると見込んだもの。懇談会でも繰り返し説明し、御理解いただいたと感じており、改めて準備委員会で説明した中でも大きな反対意見はいただかなかったことから、御理解いただいたものと捉えている。

下田中学校校舎への統合については、令和10年4月に統合小学校の児童全員を下田中学校校舎に受け入れる場合、教室数などで不足が生じるため現下田中学校校舎をそのまま使うことはできない。増築するとしても相当な建設費を要するものと思われる。少子化により、統合当初以後も児童数の減少が続く見込みの中、増築してもすぐに空き教室が増えてしまう。それならば5つの小学校校舎のいずれかを活用することが極めて適切であると考える。

「ありき」ではないかという点については、原案をお示しして異議のありなしを示す手法もあるが、学校が地域コミュニティの核であり地域にとって大切な施設であるという前提の中、あえて教育委員会としては統合の時期以外は原案を示さず議論いただいているもの。

また、統合時期については、おたよりで一文に簡略化した書き方となってしまったことはお詫びする。今後は、表し方について留意したい。なお、準備委員会の概要はホームページでも公開している。

意見　飯田小学校校舎の裏にあるのは、五十嵐神社を守る林である。また、長沢小学校校舎は近くに住宅街があり交通量があるが、飯田小学校校舎の近くに住宅街はなく、マラソン大会も安心して実施できると思う。

Q　長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校に絞られた中で、今までの進行状況を示して保護者にアンケートを行ってはどうか。

A　アンケートを行えば一定の数字として出るものの、これはあくまでも匿名の数値である。それ以上に保護者、地域、学校それぞれの立場を代表して集まっている準備委員会の皆さんにより議論を尽くし決めていくことが大事ではないかと考えている。また、準備委員会の議論もアンケートの数字に引っ張られる懸念がある。少し考えさせていただく。なお、ホームページでは常に意見を募集している。

Q　小学校校舎を2校使ってはどうか。

A　令和10年4月の児童数を想定すると1、2、3年生は1クラスと想定され、4、5、6年生は同時点では2クラスであるもののすぐに1クラスになる見込みであり、児童数の見込みを考えると使用する校舎は1校としていくべきと考えてる。

Q　各校の現在の多目的スペースの使い方や考えはどうか。

A　**長沢小学校**
統合小学校で玄関前のプレイルームを教室として活用するとして、プレイルームは移動できるしきりがある。いずれ空き教室が生じることを考えると、人数の変化に対応して使用できると考える。

笹岡小学校
活用場面は多く、多目的スペースは必要だと考える。

大浦小学校
教室以外で子どもたちが集う場所は必要だと考える。

森町小学校
多目的スペースは有効活用している。玄関前の多目的スペースは校外活動の前に集う場、3階の多目的スペースは歌の練習などで活用しており無くなると困る。

飯田小学校
多目的スペースは2か所あり、玄関前のスペースは校外活動の前に集ったり、災害時などに児童を保護者に引き渡す場所にしたり、水泳学習前の体操で活用したりしている。3階の多目的スペースは縦割り班活動時に活用している。また、暑さで外で遊べない時などにも使え、多目的スペースは必要と考える。

Q　統合校として活用する小学校校舎について、今後の進行はどうするのか。

A　各学校運営協議会の意見を聴くと、長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校に意見が集中していた。この2校を視察し、次回の準備委員会で検討してはどうか。

【提起】各学校運営協議会の意見が集中した、長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校を視察し、次回の準備委員会で議論してはどうか。
（全員異議なし）

【決定】統合校として活用する小学校校舎は、長沢小学校と飯田小学校の2校を視察し、次回の準備委員会で議論することを決定。

□□■ 第３回及び第４回　準備委員会の予定

第３回　準備委員会（視察のみ）

（1）期　日　12月16日（火）
（2）場　所　飯田小学校（午後３時30分から）
　　長沢小学校（午後４時45分から）
（3）その他　委員以外の方の参加も出来ます。直接、各学校にお越しください。

第４回　準備委員会の開催

（1）日　時　12月25日（木）　午後６時から
（2）場　所　下田中学校食堂
（3）内　容　統合小学校の校舎について
　　小中一貫教育の校舎形態について
（4）その他　どなたでも傍聴できます。申込み不要です。直接会場にお越しください。



□□■ 学校の在り方について、ご意見をお聞かせください

学校の在り方についてのご意見等がありましたら、ぜひお寄せください。お寄せいただく方法は、電話又はグーグルフォームでお願いします。

グーグルフォームの入力はこちらを読み込んでください。→

□□■ これまでの準備委員会の経過はこちら

https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/sanjoukyouiku/sanjoukyouiku/iinkai/19576.html

したただの郷未来

担当　三条市教育委員会教育総務課庶務係（井上・富樫）
電話（0256）45-1111